

当院に導入している最新機器を用いた治療法の紹介

脳卒中などの後遺症で麻痺がおこると今までのように手足を動かすことが難しくなります。当院では効果的に麻痺の回復を図るために、最新の治療法である「磁気刺激療法」、「電気刺激療法」を導入しており、医師の指示のもと、治療に役立てています。

□磁気刺激療法（rTMS）とは

私たちの脳は、常に右脳と左脳がお互いに頑張りすぎないようにバランスを取っています。しかし、脳卒中になるとそのバランスが崩れてしまい、片方の脳ががんばりすぎてしまうなど、様々な弊害を引き起こします。磁気刺激療法では、頭の外側から 8 の字型の電極で脳に刺激を加えることで、左右の脳のバランスを整え、回復を促進することを目的とした治療法です。頭の外側から、しかも痛みや苦痛を伴わず治療できるということで、現在世界的にも非常に注目されている治療法です。



□電気刺激療法（FES）とは

私たちの体は脳から『動け』と電気信号が発生して、それが神経を通り、筋肉へ伝わることで動くことができます。脳卒中などになると、電気信号を伝える神経が障害を受けるので、うまく信号を伝えることができず、思いどおりに動かせなくなります。電気刺激療法では、その伝わりにくくなった電気信号がうまく伝わるように機器を用いてお手伝いします。

当院では 3 種類の機器を導入しており、リハビリテーションに役立てています。



IVES



NESS H200 (手用)



NESS L300 (足用)